

時間割コード	G2B40413	開講年度	2026				
授業題目	日本語学と日本語史					担当教員	鈴木 裕也
英文授業名	Japanese Linguistics and Historical Japanese Linguistics						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限	対象学生	全
講義室	共通教育12講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学D P						
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				日本語について疑問や関心を持ち、日本語の基本的事項や分析方法を修得することができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム	グローバルコア人材養成コース ・ B A S I C (日本理解)						
(4)授業の概要	高等学校までの国語教育で、なぜ古典（古文・漢文）を学ぶのかという疑問を持ったことがあるかもしれない。古典を学ぶことには文学的な意義とともに、日本語学的な意義がある。 日本語学とは、日本語を研究する学問である。本授業は、日本語史（日本語の歴史）をもとに、現代日本語の特徴を考えることを目的とする。						
(5)授業のキーワード	日本語 音声 表記 語彙 文法 文体						
(6)授業計画	第1回 ガイダンス、古文の教科書の本文 第2回 歴史的仮名遣いと現代仮名遣い 第3回 日本語の語彙、語種 第4回 辞書、意味 第5回 品詞、形容動詞 第6回 テンス、アスペクト 第7回 モダリティ、ヴォイス 第8回 相互承接と活用 第9回 格助詞 第10回 敬語 第11回 方言 第12回 文体、和文と漢文、言文一致 第13回 日本語の音声 第14回 音声と表記の不一致 第15回 現代日本語の特徴、授業アンケート 期末試験						
(7)成績評価の方法	期末試験により評価する（100％）。期末試験は論述式で行い、日本語学の基本的事項を理解し、説明できるかどうかを評価の基準とする（持ち込み不可）。						
(8)成績評価の基準	日本語学の重要事項を最低限理解し表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」 日本語学の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」 日本語学の全体を理解し表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」 日本語学の全体を理解し自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越している）」 上記に至らないものは「不可」						
(9)事前事後学習の内容	各回で取り扱った内容で理解できなかった部分・興味を持った部分について、参考書・各回の資料に挙げる参考文献を読む。日本語学に興味を持っている方は、以下の参考書を一読することを推奨する。期末試験前は、授業用ノートや参考書などで日本語学の基本的事項を復習する（60時間以上の時間外学習が必要となる）。						
(10)履修上の注意	高等学校までで学ぶ文法事項を復習し、理解しておく。不安な方は高等学校で用いていた文法書を持参するとよい。 授業の復習や期末試験のため、授業用のノート等を持参することを推奨する。授業に出席するだけでは、単位は認められず、主体的に事前事後学習を行わなければならない。						
(11)質問、相談への対応	質問・相談用のformsにて受け付ける（URLはeALPSに掲載する）。						
(12)授業への出席	授業の出欠確認は学生証による出席確認システムで行うため、授業開始時間の前に必ず処理を行うこと（トラブルがあった場合は速やかに連絡すること）。全ての回に出席することを基本とする。欠席が多い場合（3分の2以上の出席がなければ試験を受けることができない）や不正な出席登録があった場合は、単位を認定しない。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」により授業に出席できない場合、共通教育履修案内に掲載されている方法により補充を受けるための申請を行うこと。						
【教科書】	指定しない。						
【参考書】	購入は必須ではない。 衣畑智秀（編）2023『基礎日本語学（第2版）』（ひつじ書房）9784823411953、1800円						

【参考書】	木田章義（編）2013 『国語史を学ぶ人のために』（世界思想社）9784790715962、2900円 風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健2004 『言語学（第2版）』（東京大学出版会）9784130820097、2500円
-------	---